

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

A 発掘された映画たち2003

Cinema: Lost and Found 2003

5月27日(木) - 7月13日(日)

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円

展示室(7階)

展覧会 映画遺産

—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage

— From the Non-film Collection of the National Film Center —

料金(個人)=一般200円/大学生・シニア70円/高校生40円

料金(団体)=一般100円/大学生・シニア40円/高校生20円

*小・中学生は無料です。

*団体料金は20名以上の団体に適用されます。

*大ホールで映画をご覧になった方は、当日に限り、個人のご入場であっても、半券のご提示により団体料金が適用されます。

- 休館は月曜日および休映週(5月19日~26日、7月14日~21日)です。
- シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示下さい。

大ホール

定員=大ホール310名(各回入替制)

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の45分前から行ない、定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。

展示室

開室=休館日以外の火曜日~日曜日

(午前10時30分~午後6時/入室は5時30分まで)

図書室(4階)

開室=休館日以外の火曜日~金曜日

(午前10時30分~午後6時/入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center

The National Museum of Modern Art, Tokyo



2003
6-7

NFCカレンダー
2003年6-7月号

大ホール 上映作品

発掘された映画たち2003 Cinema: Lost and Found 2003

上映企画「発掘された映画たち」は、フィルムセンターの日頃の収集・復元・保存事業の成果を集中的にお見せする機会となっています。今回は、ロシアのゴスフィルムフォンドで発見された日本映画と、その他さまざまな事情で収集・復元が可能となった作品とを併せ、これまでより大幅に規模を拡大して開催いたします。

中でも伊藤大輔監督、月形龍之介主演の『斬人斬馬剣』(1929年)の発見については、昨年秋の発表以来、大きな反響をいただき、従来の復元方法による成果はすでにフィルムセンター7階展示室における「展覧会 映画遺産」でも一部ビデオ公開されています。今回上映するプリントは、アムステルダムの復元専門ラボに依頼し、フィルムセンターとしては初めてデジタル復元を試みたものです。なお、月形龍之介の主演作として他に2本、新たに発見された作品を加えました。

ゴスフィルムフォンドから日本映画を収集するに至った経緯については、「発掘された映画たち2001」のNFCカレンダー、NFCニューズレター(11号, 20号, 22号, 35号)等をご参照ください。今回のプログラムでは、五所平之助監督の『新雪』(1942年)、『五重塔』(1944年)がそれぞれまとまった形でご覧いただけるほか、ごく一部分ではありますが、稲垣浩監督の『海を渡る祭禮』(1941年)を上映いたします。2001年に上映した『狼火は上海に揚る』(1944年)と併せ、稲垣浩の再発見を促す力となることを願ってやみません。また、やはり2001年に「ゴス版」として上映した『姿三四郎』は、東宝株式会社のご協力により、新たに発見された部分を従来版に挿入して最長版を作成することができました。

文化・記録映画、ニュース映画については今後継続して収集する予定ですが、今回は「満洲国」関連の映像を中心に一部を上映いたします。

- 監修・演出 ●製作 ●原作 ●脚本・脚色・潤色 ●撮影 ●美術・設計・舞台設計 ●音楽・選曲効果 ●編集 ●出演
- 本特集には不完全なプリントが含まれています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

★=ゴスフィルムフォンドで発見された作品



親



黄金の弾丸

A-1 5/27(火)3:00pm 6/13(金)7:00pm 6/29(日)1:00pm

斬人斬馬剣

(26分・18fps・35mm・白黒・無声・部分)

多くの映画ファン、研究者が長くその出現を待ち望んだ、日本映画史の伝説が甦る。『斬人斬馬剣』はいわゆる傾向映画の先駆的な作品として高い名声を誇りながら、フィルムが現存しない幻の作品であった。「普通作品の20倍」の予算をかけ、大ロケーション撮影を敢行した大作で、1992年にフィルムセンターにおいて復元公開された『忠次旅日記』(1927年)と同様、伊藤大輔監督の代表作である。東京都在住のアマチュア映画作家、寺澤敬一氏に「寄贈いただいた9.5mmフィルムは、家庭用映写機パテ・ベビーのためのダイジェスト版で、オリジナルの2割強に相当する。キズや彎曲など、素材の劣化が激しかったことから、アムステルダムの復元専門ラボに依頼し、今回の上映が実現した。フィルムセンター初のデジタル復元である。具体的な工程は、(1)ウェット液によるキズ消し処理を施しながら、9.5mm素材を直接スキャンしてデジタル・データに変換し、(2)映画復元専用のソフトウェアを用い、隣り合うコマとの差を利用してキズ消し、位置ずれ補正、フロッパー除去などを行ない、(3)再度35mmネガ・フィルムに出力し、そこから35mmポジプリントを作成する、という方法である。ただし、長時間同じ場所に出づける大きなキズについては今回の手法では修復が難しく、このバージョンもひとつの途中経過であることをお知らせしておく(復元作業:ハーゲフィルム映画保存社)。

『29(松竹キネマ京都)』●●●伊藤大輔●唐澤弘光●月形龍之介、天野野一、伊藤みはる、関根、石井貴治、市川傳之助、岡崎晴夫、中根竜太郎、浅間昇子

御談治郎吉格子

(59分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

大阪で『御談治郎吉格子』の35mm可燃性フィルムが発見されたのが1975年。『丹下左膳 第1篇』(1933年)、『忠次旅日記』、『長恨』(1926年)、そして今回の『斬人斬馬剣』の発見がこれに続いた。伊藤大輔の再発見・再評価の過程はまさにここから始まったのである。今回上映するのは従来所蔵していたプリントよりもオリジナルに近い素材から起こしたニュープリントで、長さは同じである(協力:京都文化博物館 プリント作業:IMAGICAウエスト)。

『31(日活京都)』●●伊藤大輔●吉川英治●唐澤弘光●大河内傳次郎、伏見直江、伏見信子、高瀬寛太、山口佐喜雄、山本禮三郎、高勢実乗

A-2 5/27(火)7:00pm 6/12(木)3:00pm 6/28(土)4:00pm

★海援隊快拳

(61分・16fps・35mm・白黒・無声・不完全)

監督の志波西果が1933年4月に興した朝日映画連盟は、わずかに2作を数えるのみのきわめて短命なプロダクション。この直前に志波が参加していた日本映画株式会社(やはり2作で解散)が新設した多摩川撮影所を拠点とした。『奥州旅路の朝霧』『海援隊快拳』のいずれにも、当時フリーだった月形龍之介が主演している。月形と志波は、いずれも自身のプロダクションを興して解散し、多くの会社を渡り歩いたが、月形が主役も脇役もこなす演技派俳優として息の長いキャリアを重ねたのは対照的に、志波は太秦発声で数本手がけたトーキーになじみず、まだサイレントを製作していた全勝キネマに移って間もなく映画界を去ることとなった。戦後、テレビ映画の演出等で一時復活している。

『33(朝日映画連盟)』●●志波西果●大井幸三●月形龍之介、結城重三郎、浮田勝三郎、斯波快輔、中山介二郎、有村京子、金子弘、細田又三郎、大仲半次郎、伊田兼美、桜井宗子、若山京子

★國定忠治 信州子守唄

(19分・35mm・白黒・部分)

マキノ正博が、マキノ・トーキーの旗揚げ祝いに伊藤大輔に貰った『忠次旅日記 信州血笑篇』のシナリオを、そのまま使ってトーキーで撮ったと述懐しているもの。残されているのは主に、勘太郎(野津操)を託しに忠治(月形龍之介)が壁安左衛門(浅野進二郎)を訪ねる場面だが、オリジナルとのあまりの一致に驚かされる。「優れた部分は原作の力を思はしめ、劣る部分は脚色の不備を思はしめた」もの、「マキノ・トーキーとしては創立以来の佳作作」(村上忠久)であったという。マキノ・トーキーの数少ない現存作品として貴重であるのみならず、『忠次旅日記』のオリジナル・シナリオが失われているいま、その欠落を補完する資料としても興味深い。

『36(マキノ・トーキー製作所)』●●マキノ正博●伊藤大輔●千々喬一●藤井春美●月形龍之介、澤村國太郎、葉山純之輔、水原洋一、岩見柳水、松村圭之介、野津潔

A-3 5/28(水)3:00pm 6/12(木)7:00pm 6/29(日)4:00pm

★晴れ行く空

(40分・18fps・35mm・白黒・無声)

前半は、子供に送金するべき金を指輪に使ってしまうような放埒な妻が「活動女優を憧れて鎌田(ママ)撮影所に採用され」という葉屋オチで、実際の蒲田撮影所の風景やロケーション撮影の様子を見ることが出来る。妻が突如改心した後、夫は世話になった爺やに即時年金を買ってやり、「戦争で手柄を立てて帰った者と同じやうに」してやると、爺やはすでに終身保険に入っているという展開で、通信省簡易保険局の「保険・年金思想普及」用映画としての二つの使命を果たしている。なお、監督の赤穂春雄は当時蒲田撮影所長の城戸四郎である。

『27(松竹キネマ蒲田)』●●赤穂春雄●簡易保険局●吉田百助●越智健治●石山龍剛、松井潤子、小藤田正一、戸田辨流、二葉かほる、木村健次(児)、斎藤達雄

★親(35分・24fps・35mm・白黒・無声)

やはり簡易保険局の「保険思想普及」用映画で、貧しさのために娘を捨てた父が、臨終の床で、娘のために掛けておいた簡易保険を渡すという結末。高尾光子主演、水島あやめ脚本で多作された松竹蒲田の「少女もの」の一篇でもあり、同種のものとしては斎藤寅次郎監督の『明け行く空』(1929年)が、そして本作も16mmの短縮版が国内に現存している(マツダ映画社)。監督として清水宏のほか、小津安二郎の師匠として有名な大久保忠素の名前も現れるが、明らかに書体の異なる字幕がここに挿入された理由は不明である。

『28(松竹キネマ蒲田)』●●清水宏、大久保忠素●簡易保険局●水島あやめ●杉本正次郎●新井淳、高松榮子、高尾光子、水島亮太郎、堺一、三浦時江、青山万里子、河原侃二、西野龍子

A-4 5/28(水)7:00pm 6/13(金)3:00pm 6/28(土)1:00pm

黄金の弾丸(79分・18fps・35mm・染色・無声)

日本大学を出て東亜甲陽に入社した伊南弘の初監督作。このちに帝国キネマ、新興キネマで西洋趣味の現代劇を多く手がけた。スター女優で夫人の桂珠子とともに日活多摩川へ移籍した後、早逝した。プラネット映画資料図書館で保管されていたのは染色フィルムで、不燃化にあたってはカラーのネガおよびポジを使用している。電灯をつけるのと画面の色が変わるといった演出が目玉(協力:プラネット映画資料図書館 復元作業:IMAGICAウエスト)。

『27(東亜キネマ)』●●印南弘●ヘルマン・ランドン●竹井諒●小野平一郎●島田棟助●宮島健一、一木突破、大岩栄二郎、千種百合子、中村園枝、島田富美郎、月岡正美

A-5 5/29(木)3:00pm 6/15(日)1:00pm 7/2(水)7:00pm

★天保泥絵草紙

(59分・18fps・35mm・白黒・無声・不完全)

直次郎(明石緑郎)と恋仲の三千歳花魁(松枝鶴子)を金づくで身請けしようとする御大尽、金子市之丞(尾上紋十郎)は実は大盗人で、さらに三千歳の実の兄。三者の関係に河内山宗俊(嵐璃徳)がからむ物語は歌舞伎に材を採ったものだが、1924年の『金子市之丞』と金子や河内山の配役まで同じ。多作でありながら残存作品のきわめて少ない帝キネの、反復再生産の構造が垣間見られる興味深い。大衆の絶大な人気を獲得していた市川右太衛門や明石緑郎大演の帝キネ時代劇はこの頃には飽きられはじめ、昭和の金融恐慌ともあいまって経営は極度に逼迫していた。この翌年には松竹系列に吸収され、新設の長瀬撮影所を拠点に現代劇の製作に重点を移すことになる。

『28(帝国キネマ)』●●山下秀一●上島量●塚越成治●明石緑郎、阪東豊昇、松枝鶴子、尾上紋十郎、嵐璃徳

深夜の銃声(20分・24fps・35mm・白黒・無声)

神田区警察署犯罪防止会による「一斉非常警報機」のPR映画。前半は主人の留守宅に兇漢が忍び込むフィルム・ノワールのな展開で、大都の中心的なスタッフによる堅実な描写力や垣間見せるが、後半は「通報は一刻も早く」というメッセージに、警察署関係者に対するサービス・カット的な映像が加わる。大都の製作・公開リストには記録がなく、巡回映写に使われたと思われる。なお主演の夫野あかねは松山宗三郎(小崎政房(A-11参照))の夫人、藤間林太郎はレントの藤田まことの父である(協力:川喜多記念映画文化財団 復元作業:IMAGICA)。

『37項(大都映画)』●●吉村操●●荒井弥太郎●永貞二郎、篠崎茂、藤木正夫●藤間林太郎、久野あかね、大岡恒童、廣田義一、石井光、高村栄一、山吹徳二郎、大曾根猛、金井守

A-25 6/10(火)3:00pm 6/27(金)7:00pm 7/13(日)1:00pm

★日本(39分・24fps・35mm・白黒・無声)

東京各地の風景や地方の名勝、工業や海軍の活動を総合的に取めた、資料的な価値も高いフィルム。各テーマを代表する映像が手際よく並んでいることから、文化映画などを製作する際に利便のよいストック・ショット集の趣もある。これ自体完全な作品であるという確証はなく、完成時期も明らかではないが、浅草の劇場街を彩るポスターの映画題名からは1934年頃の撮影と推測され、また事後的な付け足しと思われる日本軍北平(北京)入城(1937年)関連のショットもある。

*34項(大阪毎日新聞社=東京日日新聞社)

鴨緑江大水力発電工事

(45分・35mm・白黒)

旧満州と朝鮮との国境を流れる鴨緑江で、1937年に開始された巨大ダム工事を記録した映画。本土にはない大河でのダム建設は日本の送電技術を著しく発展させたが、冬期に多数の死者を出した苛酷な労働環境でも知られる。撮影規模も大きく、カメラの入れない水中シーン等で使われるアニメーションも巧みな表現を見せる。上映プリントは、2000年に大阪府松原市の原田智恵子氏より寄贈された16mmフィルムよりブローアップしたもの。製作会社のクレジットはないが、寄贈時のフィルム缶のラベル表記より確定した(復元作業:IMAGICA大阪映像センター[現IMAGICAウエスト])。

'40(山ロシネマ)◎熊野鈴◎影澤清

A-26 6/10(火)7:00pm 6/26(木)3:00pm 7/12(土)4:00pm

満州記録映画集(計60分)

1932年3月1日、王道楽土をスローガンに中国東北部に建国された満州国(34年3月1日には帝政に移行)。在満日本人による満州青年同盟などを中心に、建国直後の7月に結成された満州国協和会(36年より満州帝国協和会と呼称)は当初、軍閥専制を廃して王道の実践を謳い、共産主義の打倒と資本主義による独占の排除、そして民族協和と日満親善を掲げて活動を開始した。しかし、結成当時はまだ続いていた反満抗日運動に対して宣撫工作と社会事業に重点を置いた活動を行っていた協和会も、関東軍、日系官吏、そして満州重工業を初めとする特殊会社との三位一体による満州国の日本植民地化が進行するにつれてその性格を変え、政府と一体化した政治組織体となり、これがひいては近衛新体制における大政翼賛会のモデルとして日本に輸入されることとなる。協和会では、結成当初より教化宣伝の目的で映画班を組織して巡回上映を行なうとともに、中央事務局では自ら撮影も行っていた。本プログラムでは、この協和会と満州映画協会(満映)によって製作された協和会に関する記録映画やニュース映画を中心に、全国の分会代表が参集した連合協議会や満州事変(柳条湖事件)を記念する行事などを通して、建国後五年間の満州の表情を見ていく。首都として大改造された新京(長春)の広大な町並みや壮麗な構えの関東軍司令部の建物、そして関東憲兵隊司令官当時の東条英機や後にノモンハン事件で失脚した植田謙吉関東軍司令官などの姿も垣間見ることが出来る。

★第二回建国記念大会運動会(仮題)

(14分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'33(松竹キネマ)◎◎満州国情報處

★全国聯合協議會

(7分・24fps・35mm・白黒・無声)

'35(満州国協和会)

★拳國一心

(8分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'36(満州帝国協和会)

★協和映画時報九・一五 九・一八記念特輯號

(13分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'36(満州帝国協和会)

★康徳四年度全國聯合協議會(仮題)

(7分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'37(満州帝国協和会)

★康徳五年度全國聯合協議會

(11分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'38(満州映画協会)◎企画推進◎満州帝国協和会

A-27 6/11(水)3:00pm 6/26(木)7:00pm 7/13(日)4:00pm

★ツェッペリン エル・ゼット127号

日本訪問 ~第二報~

(16分・18fps・35mm・白黒・無声)

1929年8月、ドイツの大型飛行船ツェッペリン号が来日した際の記録。このイベントについては既に文部省製作の『世界一周飛行 ツェッペリン伯号』(飯下泰司撮影)が知られるが、こちらの作品では来日祝賀行事の撮影にも重点が置かれ、小泉又次郎通信大臣(現首相の尊父)、幣原喜重郎外務大臣、堀切善次郎東京市長などの重要人物が認められる。また、日本初の定期発行のニュース映画、『松竹ニュース 眼の新聞』のスタート(1930年)前に松竹蒲田撮影所が行っていたニュース報道としても大きな価値を持つ。祝賀会には大谷竹次郎社長の姿も見られ、この映画の製作が会社ぐるみの特別なものであったことがうかがわれる。

'29(松竹キネマ蒲田)

★『長門』の叔父さん

(17分・24fps・35mm・白黒・無声)

世界七大海軍の一つに数えられた巨艦「長門」の構造や機能、水兵の職務を、乗組員の「叔父さん」が子供たちに語りかける形で解説した。横浜シネマ商会(現ヨコシネディーアイエー)が製作した短篇文化映画のシリーズ「アテナ・ライブラリー」の第68篇で、同シリーズを率いた青地忠三が監修にあつた。実際に「長門」にカメラを持ち込んだ点でも貴重だろう。

'33(横浜シネマ商会)◎◎青地忠三◎飯田光治

李王垠殿下大阪偕行社小学校御訪問

【仮題】(4分・35mm・パートカラー)

日本統治下の朝鮮で李王家を継承し、日本の陸軍中將となった李王垠が、子息の通学していた小学校の活動を視察した際の記録。偕行社は陸軍師団の将校の親睦会である。注目すべきは全体4分強のうち2分弱がカラーとなっていることで、クレジットにある「大日本天然色映画株式会社」が用いていたこの色彩システムはアメリカで開発されたマルチカラー。フィルムベースの両面に乳剤が塗られた独特の2色式システムで、シネカラー・プロセスの前段階とされる。なおカラー撮影のテストと思われる、内容と関係のないショットも含まれている(復元作業:東映化学工業[現東映ラボ・テック])。

'40(大日本天然色映画)

陸軍豫科士官学校行幸御記録

(8分・35mm・白黒)

1943年12月9日、埼玉県朝霞の陸軍予科士官学校(現陸上自衛隊朝霞駐屯地)を天皇が訪問した際の記録。劇場公開を前提とせず、純粋な記録として製作されたフィルムの発見は非常に珍しい。なお、このうち数ショットは下の『將校生徒の手記』に使用されており、製作会社の枠を越えて映像がやりとりされていたことが分かる。それは逆に、この行事の撮影は日本映画社の独占的な権利だったことも証明している(復元作業:東映化学工業[現東映ラボ・テック])。

'43(日本映画社)

將校生徒の手記 陸軍豫科士官学校

(36分・35mm・白黒)

陸軍予科士官学校における講義、軍事教練、日常生活を多面的に捉えた文化映画。太平洋戦争末期の文化映画は残存数が少ないため貴重である。以上3作品は、東京杉並区的光森一誠氏宅で長年可燃性フィルムの形で保管されていたが、2000年に同氏より寄贈を受けた後、フィルムセンターが不燃化復元を行ったものである。光森氏の尊父は同校の中隊長であり、また同氏自身も生徒の一人として本作に出演している(復元作業:東映化学工業[現東映ラボ・テック])。

'44(理研科学映画)◎東隆史◎若山一夫◎竹内光男、篠原菊治

A-28 6/11(水)7:00pm 6/27(金)3:00pm 7/12(土)1:00pm

白老アイヌの生活

(38分・16fps・35mm・染色・無声・英語版)

北海道の白老アイヌ民族博物館学芸員、児玉マリ氏が保管されていた可燃性プリントからの復元。北海道帝国大学農学部動物学者、八田三郎教授が1925年に記録した映像で、1926年に東京で開催された汎太平洋学術会議で公開された。集落に新たに掘られた用水供給用の井戸での女性たちの水くみや、荷物の運搬、男女古老の挨拶、アツシ織りの様子、結婚の儀礼、病気の治療、葬式、熊送り、サケ漁などを記録している。当時すでにアイヌの文化変容は急激に進んでおり、日常からは消えようとしているアイヌの生活ぶりを再現したものだという(復元作業:育映社)。

'25(HORIUCHI CO.)◎八田三郎

新潟縣魚沼川の悲惨事 四つの魂

(46分・20fps・35mm・染色・無声)

学校で、家庭で「責任観念」を教え込まれた模範的な姉妹が、川に落ちた妹を助けるため次々に落ちて四人ごとく溺死するという「美談」を、再現をまじえつつ劇化したもの。おそらく巡回映写用の作品で、修身の教材等に使用されたと思われるが、カメラを意識する素人の子供の表情が奇妙に生々しく、強烈な印象を残す。森要は吉沢商店からMパター商会、松竹、帝キネなどを遍歴した日本映画草創期の監督で、フィルムセンターでは文部省映画『公衆作法 東京見物』(1926年)を保存しているのみである。母親役の御園艶子は、デビュー間もない高勢實業が1917年にともに出演した新劇女優(のちに結婚)で、本作出演後に早逝している(協力:プラネット映画資料図書館 復元作業:IMAGICAウエスト)。

'25(東京映画月報社)◎森要◎長里清◎岩藤隆之◎染谷定之助、御園艶子、中沢照子、声屋すゞ子、坂井すみ子、白石まき子、中村嘉子

彌次喜多 米の安塚名所巡り

(5分・16fps・35mm・白黒・無声)

新潟県安塚村(現安塚町)で保存されていた可燃性プリントからの復元。「御当地映画」の小品ながらコミカルな時代劇仕立てとなっており、安塚の名所が美しい映像で甦る。都市部での興行記録を軸に編まれた映画史の表面には現れにくい類いのフィルムだが、『彌次喜多 長鏡沿線名所巡り』なるものも同時に内務省検閲を受けており(今のところ所在不明)、全国各地に埋められているであろう映画遺産の奥の深さが予感される。(復元作業:IMAGICA)

'36◎小倉猛夫



國民の誓

図書室カレンダー

赤字は休室日

6月

Calendar for June with days of the week and dates 1-30. Red numbers indicate closed days.

7月

Calendar for July with days of the week and dates 1-31. Red numbers indicate closed days.

月	火	水	木	金	土	日
5月	A-1 斬人斬馬剣 御詔治郎吉格子 3:00pm (26分) (59分)	A-3 晴れ行く空 親 3:00pm (40分) (35分)	A-5 天保泥絵草紙 深夜の銃声 3:00pm (59分) (20分)	A-7 嬉しい娘 巡禮やくざ 3:00pm (43分) (40分)	A-9 松平外記 加賀見山 1:00pm (30分) (51分)	A-11 雲助出世街道 海を渡る祭禮 1:00pm (47分) (24分)
	A-2 海援隊快挙 國定忠治 信州子守唄 7:00pm (61分) (19分)	A-4 黄金の弾丸 7:00pm (79分)	A-6 一天を照す 7:00pm (95分)	A-8 旅鴉お妻やくざ 芝浜の革財布 7:00pm (53分) (32分)	A-10 金鑛 4:00pm (65分)	A-12 國民の誓 4:00pm (72分)
6月	A-13 冬の宿 3:00pm (87分)	A-15 姿三四郎【最長版】 3:00pm (91分)	A-17 八處女の歌 3:00pm (60分)	A-19 第五列の恐怖 3:00pm (70分)	A-21 新雪 1:00pm (74分)	A-23 護る影 愛の道標 1:00pm (62分) (21分)
	A-14 女學生記 7:00pm (76分)	A-16 暁の路 夢見る娘 7:00pm (52分) (34分)	A-18 誓ひの港 7:00pm (66分)	A-20 男の意気 7:00pm (70分)	A-22 五重塔 4:00pm (64分)	A-24 朝日は輝く 他 4:00pm (計65分)
7月	A-25 日本 鴨緑江大水力発電工事 3:00pm (39分) (45分)	A-27 將校生徒の手記 他 3:00pm (計81分)	A-2 海援隊快挙 國定忠治 信州子守唄 3:00pm (61分) (19分)	A-4 黄金の弾丸 3:00pm (79分)	A-8 旅鴉お妻やくざ 芝浜の革財布 1:00pm (53分) (32分)	A-5 天保泥絵草紙 深夜の銃声 1:00pm (59分) (20分)
	A-26 満州記録映画集 (計60分) 7:00pm	A-28 白老アイヌの生活 他 7:00pm (計89分)	A-3 晴れ行く空 親 7:00pm (40分) (35分)	A-1 斬人斬馬剣 御詔治郎吉格子 7:00pm (26分) (59分)	A-6 一天を照す 4:00pm (95分)	A-7 嬉しい娘 巡禮やくざ 4:00pm (43分) (40分)
8月	A-11 雲助出世街道 海を渡る祭禮 3:00pm (47分) (24分)	A-12 國民の誓 3:00pm (72分)	A-14 女學生記 3:00pm (76分)	A-16 暁の路 夢見る娘 3:00pm (52分) (34分)	A-20 男の意気 1:00pm (70分)	A-17 八處女の歌 1:00pm (60分)
	A-10 金鑛 7:00pm (65分)	A-9 松平外記 加賀見山 7:00pm (30分) (51分)	A-15 姿三四郎【最長版】 7:00pm (91分)	A-13 冬の宿 7:00pm (87分)	A-18 誓ひの港 4:00pm (66分)	A-19 第五列の恐怖 4:00pm (70分)
9月	A-23 護る影 愛の道標 3:00pm (62分) (21分)	A-24 朝日は輝く 他 3:00pm (計65分)	A-26 満州記録映画集 (計60分) 3:00pm	A-28 白老アイヌの生活 他 3:00pm (計89分)	A-4 黄金の弾丸 1:00pm (79分)	A-1 斬人斬馬剣 御詔治郎吉格子 1:00pm (26分) (59分)
	A-22 五重塔 7:00pm (64分)	A-21 新雪 7:00pm (74分)	A-27 將校生徒の手記 他 7:00pm (計81分)	A-25 日本 鴨緑江大水力発電工事 7:00pm (39分) (45分)	A-2 海援隊快挙 國定忠治 信州子守唄 4:00pm (61分) (19分)	A-3 晴れ行く空 親 4:00pm (40分) (35分)
10月	A-6 一天を照す 3:00pm (95分)	A-8 旅鴉お妻やくざ 芝浜の革財布 3:00pm (53分) (32分)	A-9 松平外記 加賀見山 3:00pm (30分) (51分)	A-10 金鑛 3:00pm (65分)	A-16 暁の路 夢見る娘 1:00pm (52分) (34分)	A-13 冬の宿 1:00pm (87分)
	A-7 嬉しい娘 巡禮やくざ 7:00pm (43分) (40分)	A-5 天保泥絵草紙 深夜の銃声 7:00pm (59分) (20分)	A-11 雲助出世街道 海を渡る祭禮 7:00pm (47分) (24分)	A-12 國民の誓 7:00pm (72分)	A-14 女學生記 4:00pm (76分)	A-15 姿三四郎【最長版】 4:00pm (91分)
11月	A-18 誓ひの港 3:00pm (66分)	A-20 男の意気 3:00pm (70分)	A-21 新雪 3:00pm (74分)	A-22 五重塔 3:00pm (64分)	A-28 白老アイヌの生活 他 1:00pm (計89分)	A-25 日本 鴨緑江大水力発電工事 1:00pm (39分) (45分)
	A-19 第五列の恐怖 7:00pm (70分)	A-17 八處女の歌 7:00pm (60分)	A-23 護る影 愛の道標 7:00pm (62分) (21分)	A-24 朝日は輝く 他 7:00pm (計65分)	A-26 満州記録映画集 (計60分) 4:00pm	A-27 將校生徒の手記 他 4:00pm (計81分)

展示室

展覧会 映画遺産—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage
— From the Non-film Collection of the National Film Center —

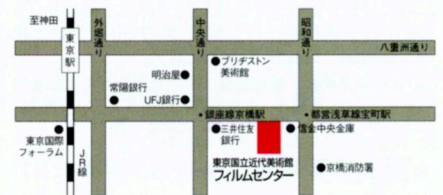
フィルム・ライブラリー(現フィルムセンター)の開設50周年を記念して再オープンする展示室では、これまでに収集してきたコレクションの中から特に珍しい映画人の遺品や初期の映画機械などを一堂に集めて展示する一方、過去に行われた映画の発見・復元の成果を紹介しながら、日本の映画保存運動の軌跡を振り返ります。

■休映期間中(5月19日~26日、7月14日~21日)は展示室も閉室となります。

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴズ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
 営団地下鉄銀座線京橋駅下車。出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車。出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車。出口7より徒歩5分
 JR東京駅下車。八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
 東京国立近代美術館ホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>